

●第 26 回 環境講演会 9 月 2 日に京田辺市中部住民センターを全館貸し切りで開催出来ました。

その日の湯本貴和先生のお話について福井波恵理事がまとめていただきましたので、皆様にご報告をさせていただきます。



第 26 回 自然と環境講演会 生き物はいろいろ（講師 湯本貴和氏）

湯本貴和・・・京都大学名誉教授 きょうと生物多様センター長 植物生態学者

長期にわたり東南アジア、アフリカ、南米の熱帯雨林の動植物の研究

三大熱帯とは

① アフリカ ② 東南アジア（ボルネオ）③ アフリカ（アマゾン）

熱帯という共通はあるが、それぞれの違いもある。

- ・樹木は光合成のため高さ競争をするために、80m以上の巨木になる。
- ・巨木の根は浅いので支えるために板根になる。
- ・光は下の地面に届かないので、植物は光の当たる木の上に着生する。（着生植物 ⇒もう一つの森）
着生植物は、樹木の上で枯れ葉と雨水で土を作り繁茂する。



① アフリカの熱帯雨林の環境と生きもの

- ・偏西風の関係で降水量の少ないアフリカは低い森林、サバンナが多く地上性の動物が多い。草食動物
- ・森林性の象（マルミゾウ 3 頭くらいで暮らす） サバンナの象（集団を組んで暮らす）
- ・森林の動物の代表 霊長類
ゴリラ・・・雄のボス（シルバーバック）を中心に暮らす。

5 時間が食事。3 時間が消化のための休息。食べることが労働。

穏やかなボノボ・・・チンパンジーと似ているが穏やかで争いのない暮らしをする。

メスがリーダー

道具を使うチンパンジー・・・はオスがリーダーで好戦的。

チンパンジーは道具を使って餌をとることがあるが、それを教えることはない。助けることもない。見て学ぶ。

教えあわない、助け合わない ⇒ 進化できない原因

ヒトは教えあい、助け合い、共感する ⇒ 進化していく。

ヒトが人になっていく。



② 東南アジアの熱帯雨林の環境と生きもの

雨量が多くNo.1 の樹林

- ・フタバガキを代表とする一斉開花がある。フタバガキの種は二枚の羽根をもち空中をくるくると回って遠くまで飛んでいく。⇒生存、発芽の確率を高める。

・ユモトゴキブリ・・・湯本先生が発見した新種 シダを分解する。

・飛ぶカエル・・・木で生活するのに水かきが異常に大きいカエル なぜ水かきが大きいのか？

⇒木から木へと飛んで移動する。大きい水かきは飛ぶためもの。カエル、ヘビ、トカゲなど飛ぶものが多い。(高い樹林帯の故、飛ぶ方が移動に便利)

・アブラヤシ(パーム油)農園の拡大 パーム油は日本では菜種油に次ぐ消費量の多い油
25%(お菓子、ラーメン、洗剤等様々な製品に使われている)

舞鶴市パーム油発電計画中止

⇒熱帯雨林の減少⇒大きな木の実を食べる象などの大型動物が減っていく。⇒ウンチに種が残ることで種を運んでいたが、種の移動がなくなる。⇒森がさらに減り空洞化していく(リス、ネズミが中心になる)



③ 南アメリカ アマゾンの熱帯雨林(新熱帯)の環境と生きもの
★新熱帯とは・・・南アメリカ大陸、中米などは長期間孤立した大陸だったので特異な生物グループが生存している。

高水位期、低水位期で陸地が変わり、森林も変わる。

・ウィーリーモンキー(ブラジル)など変わった顔をしたサルが多い。

第5番目の手



・水をためるブロメリア(着生植物)・・・雨水をためて

・ヤドクガエルにとってのため池。オタマジャクシが育つ場所。

ヤドクガエル・・・槍の先にカエルの毒をつけて狩猟に使われる



・ハチドリ・・・世界一小さな鳥(4~6 cm)

ハチは赤い花が見えない。赤い花の多い密林でハチに代わり受粉の役割をする



④ 熱帯雨林と生き物の減少をどうするか(ボルネオの例)

(アブラヤシの栽培による熱帯雨林の減少)

象、オラウータンを保護するために、森を再生させる

① オラウータン基金

女性の社会参加を大切にしながら行う。

種から苗を育てる。⇒ 植樹 ⇒ 草刈り ⇒ 森林の復活

(女性参加) (女性参加)(女性参加)

② 小さなビジネスを行いアブラヤシ栽培だけに頼らない経済活動。

自然豊かな自然を利用するボートクルーズや民泊

③ 森から森へ移動できる道の確保

このような取り組みを進めることで熱帯雨林の保護は手遅れではない。



⑤ 日本の里山と林業を考える

1974 年 四手井綱英(京都大学農学部 森林生態学)・・・「里山」を「農地につづく森林、たやすく利用できる森林地帯」と定義する。

2002 年 第二の危機 人間活動の変化による農地放棄の拡大 雑木林、ため池の減少⇒生き物の減少

2010 年 生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)において、SATOYAMA として世界に発信

2012 年 「生物多様性国家 戦略 2012-2020」において、『長い歴史の中でさまざまな人間の働きかけを通じて特有の 自然環境が形成されてきた地域で、集落を取り巻く二次林と人工林、農地、ため池、草原 など構成される地域概念』里山の重要性と多様性

里山の課題

① 生産性のある里山

雑木林、草地、農業用水路、ため池などの管理、利用で、多様な生物の生息環境が形成されてきた。それらの生息環境の維持が、里山の生きもの豊かさ、すなわち生物多様性の保全である。

② 農業遺産の継承

伝統的な農業、林業の技術を伝えていく(炭焼きもその一つかな)

③ 林業は…供給サービス⇒生態系サービス

★生態系サービスとは

1. 基盤的サービス:水や土壌などの生息環境を形成する機能
2. 調整サービス:空気の浄化や洪水の抑止など環境変化や汚染を緩和する機能
3. 供給サービス:食料や木材、燃料、医薬品などを供給する機能
4. 文化的サービス:レクリエーションの機会や文化・精神面での充足を与える機能

わかりにくいところはネットで調べ補充しました。写真も湯本先生の講演の物ではなくネットより。文責 福井波恵



●「親子カヌー体験」の参加者募集中です 9月18日(月)祝日 8時半集合～12時30分終了

今年も昨年に引き続いて「親子カヌー体験」の参加者を募集しています。木津川はドイツのオリンピックの視察に行かれた京都大学の高木公三郎教授がカヌーを持ち帰り笠置で藤田清、前フジタカヌー社長と改善を繰り返して日本での普及を行ったのが木津川の笠置浜だったのです。里山の会は京都府交響プロジェクト交付金を申請して将来を担ってくれる子どもたちにこのことを知っていただきたいこと、普段経験出来ない水面から景色を見ていただきたいこと、そして川での楽しみの愉快さを経験していただきたいと思って開催してきました。去年は募集開始から1週間で締め切りとなってしまいました。ふるっての応募をお願いいたします。応募方法はホームページからお願いします。

●第1回親子魚釣りを9月30日(土)9:30に京都府綴喜郡井手町の玉水橋東詰めの堤防広場を集合としてご参加を募集しています。

9月5日現在参加希望者は14家族44人の参加申し込みを受け付けました。釣り場への道確保のため、9月6日に第1回目通路の草刈りを突然の雨の中実施していただきました。半分が出来上がりました。午前中の事務局会議では釣竿一式を用意できるように打合せをいたしました。大阪の城北ワンドで天然記念物のイタセンパラの復元に取り組んでいるイタセン同好会から40組の借

用を約束していただくことができました。これで一応最低の用意は整いました。次は釣りの餌や獲物を入れるバケツなどの準備をどうするのかということです。第1回目のことなので手探りで準備を整えようと事務局の皆さん頑張っています。



雨の中 魚釣り会場を点検する綾史郎先生と
福井波恵さん

●週刊ニュースあと3回の発行で1000号に到達

2004年7月に創刊発行して2023年9月28日が1000号発行日に到達することになります。今号が997号になりました。この間毎週の事務局会の翌日の木曜日をパソコン教室と位置付けてニュース発行を一日も休むことなく配達を続けていただいた皆さん、本当によくやり続けていただきました。また粗末な文章を丁寧に修正し続けて下さったパソコン教室の方々、そしてそれをFAXで送信したり、ホームページを更新したりと、こんな作業を引き継いでいただいて出来上がったのです。本当に多くの方々の力を合わせあったチームの力が1000日も1000回も続けられたから記録になったのです。「里山の会は自然を大切にする仲間の輪を大きくする」精神がみんなの力を引きだしたのです。1000回続けてきた実績は大変立派な、思いもよらない記録であります。あくまでも一つの通過点です。会誌もそうですが週刊ニュースも里山の会員をつなぐ大切な役割を持っているのです。まだすべての会員さんにきちんと届け切れていないのが課題です。こうした難しい課題は横たわっています。ここまで継続出来た力をさらに引き上げ、新しい記録に向かっての強固な地盤にして躍進していく基礎が築かれたことを大きく祝いたたえましょう。

2023 やましろ里山の会 親子カヌー体験会



ここ笠置の木津川は、フジタカヌーの今の社長のお父さん（藤田清氏）が戦後、組み立て式カヌーを開発して売り出した国産カヌー発祥の地です。

またこの木津川は国内有数の砂河川で大変カヌーに適している場所です。今年もフジタカヌーさんの協力のもと、親子カヌー体験会を先着順35名で開催します。

カヌーに乗る人は、子ども2,000円、大人3,000円の乗艇料が必要です。

1人用カヌーに乗れるのは小学4年生以上です。2人用カヌー小学1年生以上と保護者が乗れます。（限定5艇）

受付はネット受け付けのみとし、[ここをクリックして専用申し込みフォーム](#)から申し込んでください。

日時	9月18日（月、祝日） 集合 8時30分～9時 雨天等で中止の場合は電話連絡します。
8:30～	現地集合、受付開始。（必ず9時には到着のこと）
9:00	開会、引き続き陸上での講習会
10:00	川に出ての実地講習
11:30	閉会
12:00	解散
場所	笠置町笠置浜 国道163号線から笠置大橋を渡ってすぐ左折、まっすぐ坂を下る。 （やましろ里山の会ののぼり旗があり、その先に駐車場があります。）
参加対象	京都府山城地域在住の親子、先着35名。 （きょうと交響プロジェクトの補助事業）
乗艇料	子ども2,000円、大人3,000円。
持ち物	帽子、着替え、水筒、タオル、筆記具、濡れてもよい靴（サンダル不可） （濡れることがあるので、スマホ、財布などは持って乗らない） （メガネも落ちると困るので、ひもなどで落ちないようにしておく）